

介護職養成校と連携

帯広市の社会福祉法人真宗協会は介護職養成校の帯広コア専門学校と連携し、2017年度からベトナム、ネパールの介護を学ぶ留学生に奨学金、住居を支援。現在、留学生16人が法人運営の特養等でアルバイトしながら介護福祉士資格取得を目指し、卒業後は職員としての勤務を見込む。学生の定員割れが続く養成校にとつてもメリットは大きく、同校介護福祉科の18年度入学生24人のうち18人が留学生だ。同様の取り組みに18年度から同市内の刀圭(とうけい)会も着手したほか、19年度は市内外の2法人もスタートさせる予定。

＝帯広・真宗協会＝

は時給980円で、留学生は月額10万円前後の収入が得られる。留学生は男性9人、女性7人で、ほとんどが20代前半。17年に4人、18年12人、19年にも5人を受け入れる予定で、17年入学生は、介護福祉士国家試験を控える。アルバイトとして働く留学生の現状について、坂井淳施設長は

「あるための行動では」と分析する。

職員も大半は留学生受け入れに好意的で、業務を切り分けることで自分たちの業務内容を見直す良い契機にもなっている。介護アシスタント事業にも共通し

留学生16人に奨学金と住居支援

真宗協会は、約4年前から東京都の人材派遣会社を通じてベトナムやネパールなど現地に足を運び、日本の介護に従事する人材と面接してきた。受け入れの流れとしては1年間、東京の日本語学校で日本語能力検定N3相当まで習得後、帯広コア専門学校介護福祉科へ2年間留学。介護を学びながらアルバイトとして、真宗協会が



奨学金(2年間で約200万円)と住宅を用意。奨学金は5年間で最大28時間、夏休みなどで免除する仕組み。真宗協会が就労する意。奨学金は5年間で最大8時間までの就労が可能で、介護福祉士国家資格取得後、在留資格が「留学」から「介護」に変更となり、希望者は職員として就労できる。

真宗協会は、留学生が介護職養成校に通う

▼業務連絡や時間にルーズ▼空き時間にスマートフォンを操作している「などの課題を挙げる。現場からの評価として最初は「トイレで15分も戻ってこないなど所在が分からないことが多い」「時間が余ったため違う業務を頼むと断られる」などもあったという。しかし、それは「文化の違い」というよりは、年齢が若く社会人として未熟で

ている現在の業務は掃除、茶わん洗い、ベッドメイク、車いす清掃などだが、一定のスキルアップが認められた人材から直接介護業務に従事してもらう考えだ。

今後について坂井施設長は「留学生が職員として定着するまで利益率が下がるため、留学生支援は将来への投資であるが、そのしわ寄せを職員に負担をさ

